

大学名 愛知教育大学

第74号 特集タイトル  
「未来社会に向けた教員養成」

表題 「共創的教員養成」で教職の魅力向上と地域の課題解決を目指す

## 社会価値は競争から共創へ

昨今、様々な領域において「共創(co-creation)」という言葉を目にすることが多くなっているが、それが象徴するように、社会活動の土台は「競」から「共」、「争」から「創」にシフトしている。愛知教育大学では、その転換はこれからの教員養成においても極めて重要だと考え、2021年3月に「愛知教育大学未来共創プラン」という中長期ビジョンを策定・公表した。この「未来共創プラン」では、「共創」を軸として教員の資質・能力の向上や教職の魅力などにかかわる取組を多様な連携、協働を基に行っている。

## 「子どもキャンパスプロジェクト」という挑戦

共創的教員養成を目指した取組の一つが、「子どもキャンパスプロジェクト」である。これは大学及びその周辺地域を「学び」と「遊び」を一体化できるエリアとして、実践フィールドと実践プログラムを提供するものである。具体的には、地域の企業やスポーツクラブ・NPO法人等と協働して地域の抱える諸課題を解決する「地域協働教育体験活動」を教育課程に組み込むとともに、附属学校や公立学校の遠足や校外学習の受入を行う。また、学生が自らの興味・関心をもとに主体的にプログラムを企画することも奨励し、その成果を地域に還元する場として子ども向けイベント(「あつまれ！子どもキャンパス」)を実施している。2023年度は約6,500人、2024年度は11月末時点で約4,900人の子どもたちや保護者、学校教員等が本学に来訪した。



「あつまれ！子どもキャンパス」で運動あそびをする小学生と学生

## 共創的教員養成が目指す社会的インパクト

共創的教員養成が目指す主な社会的インパクト、そして未来社会の姿は以下の三点である。

1. 教員を目指す学生は、子どもと接する機会を増やすとともに、学校現場の抱える諸課題を地域と共に解決していく経験をする中で、教員に必要な資質・能力を高める。
2. 子どもたちは、教員を目指す学生と楽しい「遊び」や「学び」を体験するとともに、「教える」ことに関心を向ける機会を得て、教職の魅力を高める。
3. 地域社会は、自らの抱える諸課題を大学(大学生及び教職員)と改善・解決に向けたアクションを起こすことで、共に地域社会や地域の教育を創っていくことができる。

なお、本学教員養成課程の教員就職率について、「未来共創プラン」策定時の2021年3月卒業者は61.2%であったが、2023年3月卒業者は68.8%まで改善している。

